

(1) 明々堂眼科醫院新館全景

明々堂眼科醫院新築工事概要

伊場野建築事務所 伊場野成哲

合理的コンクリートの施工により竣工した明々堂眼科醫院は、明治十九年創設、今回現院長須田卓彌氏が改築を計畫されしもの、昨年十一月十八日起工の準備にかゝり本年十月十七日落成開院の運びを見るに至つた。本工事を第一期工事とし第二期附屬工事目下計畫中である。

位置及敷地 東京市小石川區春日町四九

敷地の坪數 652 坪

各階の面積 地階 18坪10 一階 99坪20

二階 96坪60 屋階 2坪70

外に、庇、冷暗庫、渡廊下等 7坪40

延坪數 224坪00

階高及建築物の高さ

地階 8尺00 一階 10尺00

二階 10尺00 屋階 9尺00

建物最高部高さ 37尺00

軒高扶欄の上端 24尺00

〔平面計畫〕

地階 暖房「ボイラー」室、浴室、倉庫

一階 診察室、治療室、豫診室、研究室、
暗室、調藥室、冷暗庫、控室、事務

室、宿直室、小使室、玄関、便所、
物置、廊下、階段等

二階 手術室、圖書室、看護婦室、婦長室
病室、便所、洗面所、廊下、階段、
消毒室、巻法所等

屋階 屋上散歩場に昇り口

〔建築様式〕

近世式（輕快單純なるもの）

〔構造〕 基礎は松杭長 3 米 9 4 打ちこし、鐵筋コンクリート、基礎版及び繫梁を一體として地階内面床下鐵筋コンクリート厚 1 尺 2 寸捨版打ちの上、防水層七層を施し、壁面共立上げ、防水層押へ鐵筋コンクリート打ちこした。

構造主體は鐵筋コンクリート耐火構造で

特にコンクリートの調合、水量、天候、ウオカービリター等に注意施工した。

〔外装〕 腰廻りはモルタル塗小叩きの外観に仕上げ、壁面は總てモルタル塗、正面玄関の一部は万成花崗凝石塗仕上げをした。

窓廻りは外部防水モルタル墳め防水劑テーエス二回塗抹の上モルタル塗仕上げ、注意の部分は尙ほテープラス液を二回塗布した。

屋根は伊東産火山砂利コンクリート打ちで防水層を施し、その上火山砂利モルタル層を施したる上防火版敷きをした。

〔内装〕 一般壁面及天井は漆喰塗、腰廻り、浴室、各便所、治療室等はタイル貼付けとし、研究室、洗面所、流場、巾木、各廊下、階段等はアルス塗をした。

床は控室、應接室をチーク材フローリング・ブロックで張り、診察室、治療室、豫診室、圖書室等は、コルク下敷きリノリウム敷き、一般廊下、調藥室、研究室、暗室、階段等アルス床、各病室はコルク敷である。便所、洗面所、浴室、玄関等はモザイク、タイル及タイル敷きで、地階床はモルタル塗仕上げである。

〔雜作及建具〕 木製建具は米松製ワニス及ペンキ塗に仕上げ鋼製建具の内、外廻り窓は總てスチールサツシユ、各防火扉はアスベスト入れ鐵扉とし、ペンキ及エナメル塗仕上げをした。

建具金物は總てゴルビン會社及エール會社製品を使用し、内部金物は總てニツケル鍍、把手を硝子玉とした。

〔附帶設備〕 煖房 温水煖房設備で、各室に放熱器を配置した。

衛生 便所は水洗式とし、汚水淨化槽設備を施した。

電氣及瓦斯 電氣は燈火用とし、瓦斯は洗面及手洗用に使用、湯沸器ヴァイラント其他の器具を設備した。

換氣 特種の換氣設備は施さないが屋上塔屋空氣拔を利用し、各室にはスタンレーデスター金物を取附けた。

〔工程〕 地鎮祭 昭和二年十一月二十四日

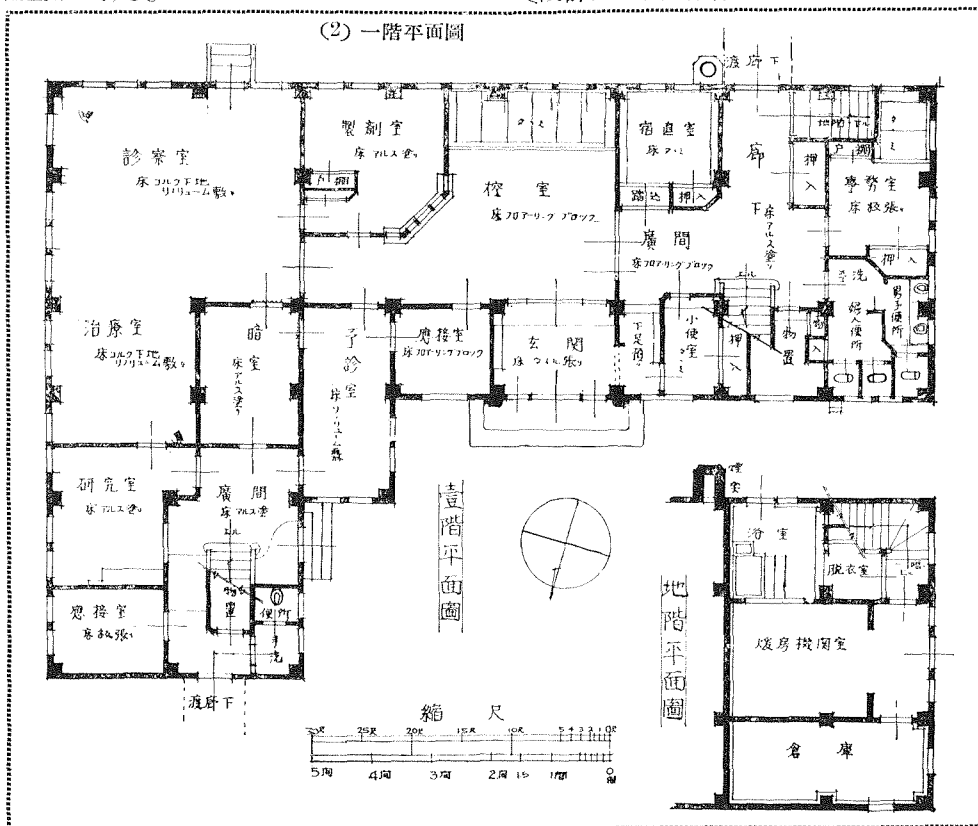
起工 昭和三年十二月二十五日

上棟式 同 四年七月十八日

竣工 同 四年十月一日

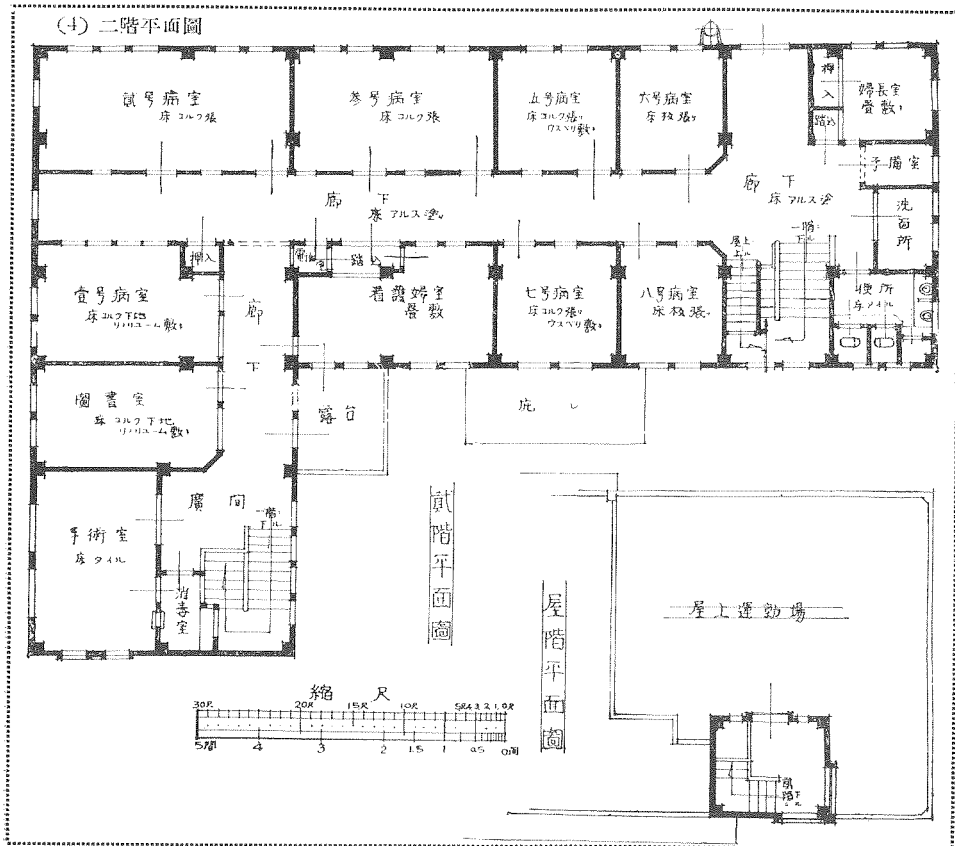
〔現場出場各職従業延人員〕 6千128人4分

〔設計及工事關係者〕





(3) 二階廊下及病室



設計製圖及監督、工事施工擔任伊場野成哲。
鐵筋強度計算小久保金三郎。現場監督立岩
茂樹。現場係高部金太郎。工事施工係及製
圖主任村松秀夫。

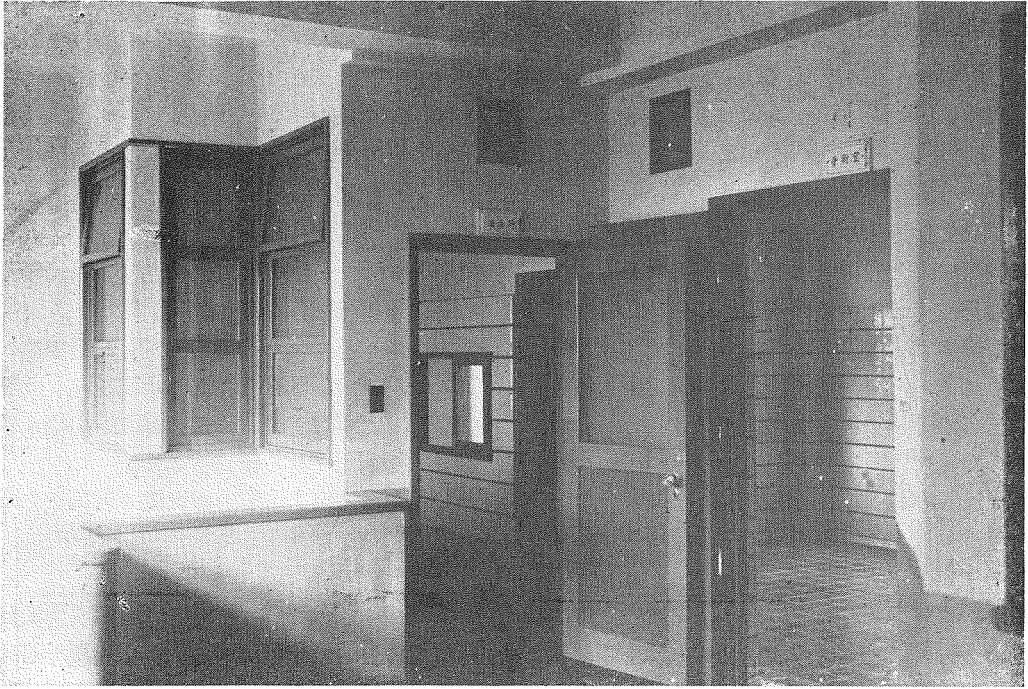
〔本工事附帶設備〕

衛生、水道、煖房工事東洋工業商會。瓦斯工
事東京瓦斯會社。電氣工事由光商會。家具
製作鳥羽商店。同松下商店。裝飾施工小林
榮商店。

〔本工事施工各分擔者〕

木工事、假樑、雜作工事西村松五郎。同上西
村三之助。コンクリート工事小林備浩。左
官工事高部仲次郎。建具工事大山忠藏。防
水工事岡田商店。塗工工事宮寺福市。硝子
工事櫻井商店。金物材料岩川商店。同製作
恒川商店。同工事吉隆商店。アルス塗工事
最上谷商店。セメント材料龍門商會。防水
其他材料油脂化工社。タイル材料平田商店
防水材料高谷商店。其他（昭和四年十月九
日記）





(6) 二階手術室及消毒室



(7) 玄関待合室より階段を望む